

### 3 各務原市立八木山小学校

学 校 名	各務原市立八木山小学校 (校長 石黒 育子)
活動の種類・単位	奉仕・福祉の活動に全校で取り組んだ。
教育課程上の位置付け	道徳 総合的な学習の時間

#### 1 活動テーマ

人・地域とのふれあいを通して、思いやりや助け合いの心を育てる。

#### 2 主な活動内容

##### (1) 異学年集団による縦割り活動

- ・全校児童を20の縦割りグループ(1グループ12名程度)に編成し、6年生がリーダーとして活動を進めている。
- ・休み時間の「縦割り遊び」、年間2回の「八木山オリエンテーリング」、児童集会「1年生を迎える会」「6年生ありがとう集会」を行った。
- ・八木山オリエンテーリングでは、地域自然団体「八木山自然の会」や地域特別支援団体「どんぐりクラブ」によるオリエンテーリングでの安全の確保、自然探索での講師、特別支援学級児童のサポートなどの支援を得て活動を行った。



▲ 八木山オリエンテーリング

##### (2) ボランティア活動

- ・各務原市で配付しているボランティア手帳を活用し、進んでボランティア活動に取り組むような意識づくりをした。登校後、児童があいさつボランティアとして校庭に立ちあいさつ運動を行った。秋には環境委員会の企画で落ち葉拾いボランティアを募集し、校庭の落ち葉拾いを行った。
- ・全校児童がボランティア活動に取り組むことで奉仕の心が育ち、全校で延べ13500回以上のボランティア活動を実践している。

##### (3) 地域の高齢者との交流活動

- ・6年生が福祉活動を実施した。車いす体験・高齢者体験・アイマスク体験活動等をもとにして、地域のボランティアハウスとの連携による2回の訪問及び交流体験をし、その振り返りを次の活動に活かすPDCAのサイクルを位置づけた。
- ・地域の高齢者に運動会の招待状を送り、来校された高齢者とともに玉入れ競技を行った。



▲ ボランティアハウス訪問

#### 子供たちに付いた力

異学年集団による活動の位置づけ、ボランティア活動の励行、地域高齢者との交流活動によって、思いやり助け合う行動が増え、思いやりをもった接し方や言葉のかけ方などが育まれた。これらの活動を位置づけることで、子どもたちに相手意識が芽生えたり高まったりした。

#### 効果

異学年や地域高齢者など交流を行った相手と顔見知りになったことで、学校内や地域の中であいさつを交わしたり、会話が生まれたりするなど温かい関係が生まれた。自らができるボランティア活動を見つけ、進んで取り組むことができるようになってきた。

#### 今後の方向

今後も地域との連携を一層図り、温かい人間関係を構築するために自らができることを考え行動できる児童を、今回の活動を継続しながら育てていきたいと考える。

